NIE実践報告

1．タイトル：☆環境問題を歴史的にとらえる新聞活用について

2．学校名

エクセラン高等学校(長野県、私立)

3．実践者名（代表者名）

竹内　久代

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

環境科学基礎　15人　環境園芸コース学校設定科目

6．単元（本時の学習課題）名

地球･地域環境問題と今後の人間社会のありかた

7．目標(狙い)

(1)現在の環境問題は過去からの積み重ねられた結果であり､かつ今後の人間生活への出発点であることの理解
(2)解決しようとしてきた過程から､行政主導でない個人努力や循環型という考え方を読み取る

8．評価の視点

(1)環境問題の特徴を表すキーワードを書き出し､キーワードを原因･問題･対策に分けることができたか
(2)環境領域図と年表にキーワードカードを置き､カードや字の色を参考に問題の歴史的特徴を見られたか

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「地球環境問題･地域環境問題と人間生活の関係について」「新しい循環型社会のありかたを考える」
教科書教材･インターネット･実地調査･新聞活用　　など　合計50時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)自宅の新聞から､環境問題に関係すると思う記事を毎週2つ以上収集し､環境問題だと思う根拠となったキーワードを書き出す。
(2)S46年･S47年の新聞記事(環境問題として収集されたもの)から､環境問題としてのキーワードを書き出す。
(3) (1)(2)のキーワードの中から個人で各々10のキーワードを抜き出し､現在のキーワードを青カードに､S46年のキーワードをピンクカードに書く。
(4)その場合､原因を表すキーワードは赤字で､問題そのものを示すキーワードは黒字で､解決策を表すキーワードは緑字で書く。
(5)キーワードカードを持ち寄ってグループごと(4～5人)にカードを環境領域図(個人レベル～国際レベル､行政･企業レベルなど)や年表図に置いて､環境問題の歴史的な特徴を読み取る。
(留意点)
･環境問題の昔と今を比較するのではなく､流れとして理解できるように､特徴として感じられる教材作りと問いかけをしていく。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

･「自分たちは昔の人たちのツケをもらっているんですね」「でもこれを次に回していくのも自分たちなんだ」という感想が得られ、環境問題を歴史的にとらえると同時に、自分たちの今後の役割を意識できた。
･基本的には産業革命が問題の出発点になっているが､江戸時代の生活に見られる循環志向にも気がついた。

12．成果と課題

(1)環境問題を具体的身近な問題として知る媒体として新聞は有効である
(2)現在の最新情報を得る媒体として､かつ歴史的な蓄積を知る媒体として新聞は有効である
(3)新聞記事から抜き出された「キーワード」がいろいろな意味を持つ
(4)高校生という年齢で､グループごとの話し合いの媒体に新聞記事や新聞が有効に機能する
●記事内容をキーワードに集約する場合､何年のどのような背景で使われているキーワードであるかをおさえておいた方がキーワードからより特徴を読み取れるのではないか